

はじめに

現在の歯科医学教育は1996年に報告された21世紀医学・医療懇談会 第1次報告「21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して」¹⁾に端を発し、段階を経て改革が行われた。この報告書は「わが国における医療人育成において、最も改善を要するのは実習であり、医師および歯科医師育成における臨床実習、薬剤師育成における実務実習、看護婦（士）（現看護師）育成における実習など、それぞれ飛躍的に充実させる必要がある」と提言している。

その後2001年に医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議が開催され、「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について－学部教育の再構築のために－」²⁾として、「カリキュラムの在り方」、「臨床実習開始前の学生の適切な評価システムについて」、「臨床実習の充実について」、「教育能力開発の推進について」が検討され、現在のモデル・コア・カリキュラムの策定、共用試験の実施・評価、診療参加型臨床実習の充実、全国的なFDの導入につながっている。歯学教育モデル・コア・カリキュラムは2001年に導入され、現在平成28年度改定版が出されている。さらに4年に一度改訂される歯科医師国家試験出題基準についても、本年平成30年度版として改訂された。また、2009年の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」で課題となった「歯学教育認証評価の試行」に基づき、文部科学省の補助事業である「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」の中のテーマ「医学・歯学教育認証評価等の実施」により、

平成2012年度から平成2016年度にかけて評価基準の策定、評価トライアルが実施された。

1. 平成28年度版歯学教育モデル・コア・カリキュラム³⁾の概要（平成28年度改定版より抜粋）

(1) 基本理念

平成28年度の改定の基本理念は以下の理念に基づき行われた。

○キャッチフレーズ「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」

国際的な公衆衛生や歯科も含めた医療制度の変遷を鑑み、国民から求められる倫理観・医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などのニーズに対応できる実践的臨床能力を有する歯科医師を養成することを意識して、医学教育モデル・コア・カリキュラムと同様にキャッチフレーズがつけられた。

○社会の変遷への対応

災害時の歯科医師の関わり、歯科口腔保健法や社会保障制度改正、社会が求めるプロフェッショナルリズム、歯学教育の国際化など、様々な社会変遷に対応できる歯科医師を養成することを目的とした。

○医療提供体制の地域包括ケアシステムにおけるチーム医療・多職種連携

地域完結・循環型の医療提供体制や地域包括ケアシステム、在宅医療など地域において、チーム医療の一員として全身の病態を理解し、多職種との連携ができる歯科医師養成を目的とした。

○卒前・卒後の一貫性

卒前教育から国家試験、歯科医師臨床研修、生涯学習までの歯学教育の一貫性を求めた。

○医学・歯学における「基本的な資質・能力」の共有

「基本的な資質・能力」は医療人として医師と共

^{*1} Dentist

^{*2} Tsuneo Sekimoto 日本歯科医学教育学会理事長、日本歯科大学新潟生命歯学部

有すべき事項として、卒前教育の段階から修得することを目的とした。

(2) 歯学教育モデル・コア・カリキュラム総論改訂の概要

○モデル・コア・カリキュラムと国家試験出題基準、臨床研修の到達目標の整合性を図った。

○「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」については医学・歯学の両モデル・コア・カリキュラムで共通項目とした。

○診療参加型臨床実習をさらに充実させるためのカリキュラムとした。

○超高齢社会への歯科的対応に関する項目を増やした。

○臨床実習開始までの基礎模型実習を含めた技能教育に関する学修目標を新設した。

○教養教育と準備教育が融合されたカリキュラムとした。

○一般目標と到達目標の関係を明確にするために「ねらい・学修目標」に変更した。

○臨床実習開始前までに修得すべき項目に付与されていた*印を廃止した。

○モデル・コア・カリキュラムのコンセプトに立ち返り総量をスリム化した。

○不統一に使用されている歯学用語の表記を統一した。

○歯学教育のグローバル化の観点から英語版を作成し世界へ発信することとした。

2. 歯学教育認証評価

分野別評価については、わが国では薬学のほか、医学教育分野においても平成27年度に一般社団法人日本医学教育評価機構（Japan Accreditation Council for Medical Education (JACME)）が設置されるなどすでに実施に移行している。一方、歯学教育においては、イギリスではGeneral Dental Council (GDC)、米国ではCommission on Dental Accreditation (CODA) が設立されている他、ドイツやマレーシア、香港でも歯学教育認証制度が確立され、歯学部教育の質保証が第三者により評価されている。日本においては、平成21年の「歯学教育の改善・充実に関

する調査研究協力者会議」の提言を受けて、文部科学省の補助事業である「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」の中のテーマ「医学・歯学教育認証評価等の実施」により、平成24年度から平成28年度にかけて歯学教育認証評価制度等の実施に関する調査研究⁴⁾が行われた。この研究の目的は、わが国の歯学教育機関である歯科大学・大学歯学部における歯科医師養成の教育内容が国際標準に比較して遜色のない水準であることを証明するため、認証評価基準を作成し、実際にトライアルとして複数大学で認証評価を実施し、歯学教育認証制度を構築することとした。トライアルは、九州歯科大学、大阪歯科大学、新潟大学歯学部、東京歯科大学、東京医科歯科大学、岡山大学歯学部、東北大学歯学部において、策定された認証評価基準（案）⁵⁾を用いて実施された。さらに平成29年度の全国歯科大学学長・歯学部長会議において歯学教育認証評価の本格実施について確認された。

3. 平成30年度版歯科医師国家試験出題基準⁶⁾

歯科医師国家試験出題基準は、昭和60年に策定されて以来、歯科医療・歯学教育の変化に合わせて4年ごとに改定し、内容の見直しを継続的にやっている。今回の改定は、平成28年3月に取りまとめられた「歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書」の提言を踏まえて行われた。

改定の概要は以下の通りである。

- (1) 改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムとの整合性や歯科医師臨床研修の到達目標とも整合性を図った。
- (2) 社会情勢の変化に合わせて、以下の内容が充実された。
 - 高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関する内容
 - 地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容
 - 口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科診療に関する内容
 - 医療安全やショック時の対応、職業倫理等に関する内容

- (3) 歯科医師国家試験において、歯科医師として
具有すべき知識及び技能を適切に評価する出
題ができるよう、可能な限り包括化・簡素化
が行われた。

4. 歯科医師臨床研修

歯科医師臨床研修においても超高齢者社会を迎え、高齢者歯科医療および訪問歯科診療に関わる実践的なプログラムの導入が急務となっている。しかしながら訪問歯科診療においては、まだ指導医のスキルや実施体制など環境が整っている施設は少なくプログラムが不十分となっている。そこで厚生労働省の補助を受け歯科医療振興財団が開催している歯科医師臨床研修プログラム責任者講習会⁷⁾において、超高齢者社会への対応をテーマとして、プログラム構築のためのワークショップを継続的に行っている。

■文 献

- 1) 21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して
(21世紀医学・医療懇談会 第1次報告) 1996文部科
学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/
- 2) 「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について－学部教育の再構築のために－」
2001医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力
者会議出版
- 3) 歯学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度
改訂版
2017モデル・コア・カリキュラム改定に関する連絡
調整委員会、モデル・コア・カリキュラム改定に関
する専門研究委員会
- 4) 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグロー
バルな医師養成」
2012文部科学省 [http://www.mext.go.jp/a_menu/
koutou/kaikaku/1319461.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/1319461.htm) (最終閲覧日：2017.9.25)
- 5) 歯学教育認証制度の実施に関する調査研究2012
<http://www.cermed.jp/index.html> (最終閲覧日：
2017.9.25)
平成30年度版歯科医師国家試験出題基準について
- 6) 2017 厚生労働省 [http://www.mhlw.go.jp/stf/
shingi2/0000163627.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000163627.html) (最終閲覧日：2017.9.25)
- 7) 歯科医師臨床研修プログラム責任者講習会
一般社団法人歯科医療振興財団 [http://www.dc-
training.or.jp](http://www.dc-training.or.jp) (最終閲覧日：2017.9.25)